

2050年二酸化炭素排出量実質ゼロへ

「ゼロカーボンシティいせはら」を宣言しました

昨今、二酸化炭素などの温室効果ガスが増え、地球温暖化は進む一方となっています。

国では、昨年10月に「2050年までに、温室効果ガスの排出量を全体としてゼロにする、カーボンニュートラルを目指す」ことを宣言しています。

本市においても、私たちの財産ともいえる豊かな自然との共生を、将来世代へ引き継いでいくため、市民や事業者の皆さんと地球温暖化対策を推進し、2050年における二酸化炭素排出量実質ゼロと気候変動に強いまちを目指す「ゼロカーボンシティいせはら」を10月22日に宣言しました。



宣言書を持つ高山市長

「ゼロカーボンシティいせはら」宣言

～2050年二酸化炭素排出量実質ゼロに向けて～

近年、日本をはじめ、世界各国で猛暑や集中豪雨等の異常気象による災害が頻発しており、私たちの生活環境や財産、生命までも脅かす状況となっています。この異常気象の原因は、二酸化炭素等の温室効果ガスによる地球温暖化が原因と考えられています。

2015年に合意されたパリ協定では「産業革命前からの平均気温上昇を2℃未満とし、1.5℃に抑えるよう努力をする」という目標が示され、2018年に公表されたIPCC（気候変動に関する政府間パネル）の特別報告書では、この目標を達成するには「2050年までに二酸化炭素の実質排出量をゼロにすることが必要」とされています。さらに、2021年に公表されたIPCCの報告書では、「地球温暖化の原因は人間活動である」と初めて断定的な表現がなされました。

本市は、丹沢大山を始めとした豊かな自然の恵みを受けながら、歴史と文化を守り、発展を続けてきました。

私たちの財産ともいえる豊かな自然との共生を、未来の世代へ引き継いでいくためにも、今の時代を生きる我々が、真摯にこの問題と向き合い、着実に解決のための歩みを進めていかなければなりません。

今後、市民や事業者の皆様と一体となって地球温暖化対策を推進することで、2050年における二酸化炭素排出量実質ゼロと、気候変動に強いまちの実現を目指す「ゼロカーボンシティいせはら」をここに宣言します。

令和3年10月22日
伊勢原市長 高山 松太郎



みんなで一緒に「COOL CHOICE」

市では地球温暖化防止のための、あらゆる「賢い選択」をしていこうという国民運動「COOL CHOICE」に賛同し、地球温暖化対策を推進しています。

一人一人が二酸化炭素の排出量を削減できるライフスタイルを実践できるよう、次のような事業を行っていきます。

◆エコドライブ講習会・エコドライブ診断◆エコ・クッキング動画の配信◆賛同施設・団体の募集と取り組みの紹介◆公共交通機関利用促進キャンペーン

「地球温暖化対策セミナー」をオンライン開催します

「地球温暖化のメカニズムと影響を知り、行動を変えていく」をテーマに国立環境研究所の江守正多さんがオンラインで講演します◇申し込み不要。通信料、インターネット接続料は自己負担。右のQRコードからどなたでも視聴できます
とき 12月19日(日)午後3時～(1時間程度)



特設サイト



江守正多さん

環境対策課 ☎94-4737

市制施行 50周年記念 アーカイブ シリーズ 新聞記事で振り返る あの日、あの時

第11回「市民文化会館がオープン」

今回紹介するのは市制施行9周年を迎えた同日に、落成式が行われた市民文化会館について掲載された、昭和55(1980)年3月1日の記事です。

きょうオープン
伊勢原市民文化会館
市民文化活動の拠点に
総タイル張り 周囲にマッチ

伊勢原市民文化会館がきょう一日オープンする。五十二年から総工費十九億円を投じて建設された。隣接の市庁舎に色彩がマッチするよう設計された総タイル張りの外観。

千三百四十人を収容する大ホールには、ガラス張りの特別観覧席や三分割に使用できるオーケストラピットなど独特の設計が施されている。会館内には展示室、畳敷きの練習室が設けられ、市内の各種団体も利用できる。既に大ホールはことし七月までの土、日曜日の使用申し込みは満杯の状態。伊勢原市民の文化活動の拠点としてフルに活用されそうだ。
(後略)[神奈川新聞]



提供 神奈川新聞社
※当時の紙面記事をそのまま使用
(一部記事省略)

近代建築の粋が集まった「市民文化の殿堂」が誕生しました

行政文化センター協議会を中心に建設構想がまとめられ、昭和54(1979)年10月から本格的な工事が始まった市民文化会館。近代的な音響効果高め、音楽・演劇などが楽しめる大ホールと合唱やピアノ演奏といった発表の場としても利用できる小ホールを中心に、展示室や練習室などを1階に集中して配置し、車いす利用者も館内を移動しやすいように設計しました。

また、郷土の歴史や明るく豊かで健康な風土を象徴するものとして、舞台を飾る緞帳を製作。大ホールは「栄光の伊勢原」、小ホールは「緑景の詩」をテーマに、市の木「シイ」と市の花「キキョウ」、市の鳥「ヤマドリ」を取り入れた図柄が描かれ、落成式当日に披露されました。さらに後日、記念行事としてTBS「家族そろって歌合戦」やNHK「のど自慢大会」の公開収録が行われました。

◇「シリーズ 新聞記事で振り返る あの日、あの時」は今回で終了します

伊勢原市×神奈川県 新型コロナウイルス感染症対策 特別連携広報(その3)



事例を知り、感染拡大を防ぐ



神奈川県 PRキャラクター
かながわキントロウ

県の医療危機対策本部室と連携し、保健所が把握している感染事例を4コマ漫画形式で紹介します。どのような場面で感染が広がりやすいかという傾向を知り、感染症対策につなげていきましょう。

事例1	事例2	事例3
ワクチン接種後も感染対策を 1 ワクチン接種済みの祖父母と 2 久しぶりに会食 3 その後、自分の陽性が判明し、祖父母も発症 4 接種後も対策が必要です 	オンラインの有効活用を 1 お世話になった同僚の送別会 2 断り切れずに参加 3 参加者の半数が陽性になり、業務に支障 4 集まらない勇気を持ちましょう 	検査結果は自宅で待ちましょう 1 発熱があり、病院でPCR検査を受けた 2 結果を待たず、遊ぶ約束をしていた友人と外出 3 陽性の連絡があり、友人は濃厚接触者に 4 検査結果判明前は自宅で過ごしましょう

◇ワクチンを接種しても100%の発症予防効果を得られるわけではありません。普段会わない人との接触は慎重に(特に会食は要注意)

◇「大勢で集まるのは危険」という意識をもつことが必要です。感謝の思いは、オンラインでも伝えることができます

◇結果が出る前の外出は、感染を広げてしまうリスクがあります。陰性が判明するまでは、家の外に出ることを控えましょう